

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

A 発掘された映画たち 1999

Cinema: Lost and Found 1999

11月3日(水) - 11月20日(土)

料金=一般410円/学生250円/小人180円

展示室(7階)

石内都 モノクローム一時の器

Miyako Ishiuchi: Time Textured in Monochrome

10月5日(水) - 12月11日(土)

特別展料金=一般210円(170円)/学生120円(90円)/小人90円(50円)

* ()内は20名以上の団体料金

● 11月の休館日: 日曜日・月曜日

休映日: 11月2日(火), 11月23日(火)~11月27日(土)

* 展示室は休映日にも御利用になれます。

大ホール

定員=大ホール310名

発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の45分前から行ない、定員に達し次第締切となります。
- 開映後の入場はできません。
- 各回入替制です。

展示室

開室=休館日以外の火曜日~土曜日

(午前10時30分~午後6時/入場は5時30分まで)

発券=7階受付

図書室(4階)

開室=休館日, 休映日, 祝日, 臨時休室日以外の火曜日~金曜日

(午前10時30分~午後6時/入室は5時30分まで)

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



1999

11

NFCカレンダー
99年11月号

大ホール 上映作品

発掘された映画たち 1999 Cinema: Lost and Found 1999

今回の「発掘された映画たち 1999」では、近年収集しフィルムセンターにおいて修復・復元作業を終えた作品と、すでに復元した作品のなかで再映希望の多い作品をまとめて上映します。

なかでも、1997年に宇賀山正昭氏(新潟県塩沢町在住)から一括寄贈を受けたパテベビー版のなかから35mmへのブロー・アップを完了した、小津安二郎監督の「和製喧嘩友達」(1929年)、斎藤寅次郎監督の「石川五右衛門の法事」(1930年)、熊谷久虎監督の「本壘打」(1931年)などは貴重な発掘であり、初めての上映となります。またブラジルの日系移民が製作した「バルガス平原の決斗」(1954年)のネガ・フィルムがなぜか国内に保管されていたという事実は、発掘がしばしば偶然の産物であることを教えてくれます。溝口健二監督の名作として知られている「瀧の白糸」(1933年)は、ラスト・シーンが欠如した所蔵プリントと、全体としては短いもののその場が存在するプリント(京都府京都文化博物館、共和教育映画社)が残されていました。今回上映するプリントはこれらの3本を比較検討し、最良の映像を選択しつつ作製した最長版の35mmプリントです。

フィルムセンターでは「発掘された映画たち—小宮登美次郎コレクション」(1991年)、「『忠次旅日記』特別上映会」(1992年)などを催し、失われたと思われていた名作の復元上映を実施してきました。本特集は内容的にはこれらにつながるものでもあり、また、その後の収集保存事業の成果でもあります。映画の鑑賞とともに、発掘されて甦った作品の「生命力」に触れていただければ幸いです。

A-1 11/3(水・祝)1:00pm 11/10(水)6:30pm 11/18(木)3:00pm 11/20(土)4:00pm

ストーン節 (26分・20fps・35mm・無声)

〈鈴蘭〉牛原虚彦、〈最新籠の鳥〉島津保次郎とともに「小唄集」として製作されたオムニバス映画の一篇(所蔵バージョンのタイトルは後年差し替えられたもので、松竹社史などでは「ストーン」として紹介されている)。食堂の女給に熱を上げる工員が、給料を飲食代に使ってしまって借金取りに追われ、夫婦喧嘩の末ようやく目を覚ますという歌詞の内容通りに繰り広げられるドタバタ喜劇。近年、松竹で発見されたものである。

'24(松竹蒲田)◎池田義信◎長井信一◎新井淳、飯田蝶子、小藤田正一、東栄子、伊志井寛、若林廣雄

大学は出たけれど [マーヴェルグラフ短縮版] (11分・24fps・35mm・無声)

10作目のこの作品で小津は大スターの絹代と高田稔を起用することができた。昭和初期の不況時代を示す代名詞ともなったこの作品は、上京した母と若妻に無職である事を言えない青年が、妻の献身的な励ましで無事に就職するまでを喜劇的に描いたもの。人生の悲哀感が濃厚な約70分の作品のうち、残存する11分ほどの断片16mm版を35mmに復元した。

'29(松竹蒲田)◎小津安二郎◎清水宏◎荒牧芳郎◎茂原英雄◎高田稔、田中絹代、鈴木歌子、大山健二、日守新一、木村健児、坂本武

突貫小僧 [パテベビー短縮版] (18分・18fps・35mm・無声)

小津作品の第12作。野田高梧、大久保忠素、池田忠雄、小津の4人で合作されたこの原案は、誘拐された腕白坊主に2人の犯人が翻弄されるという短編喜劇。小津は前作「会社員生活」で気に入った子役の青木富夫を再度起用して成功、以来、青木は(突貫小僧)の名前で人気者となった。約37分の作品を半分に短縮した9.5mm版を35mmに復元したもの(復元作業:育映社)。

'29(松竹蒲田)◎小津安二郎◎野田忠二◎池田忠雄◎野村昊、茂原英雄◎斎藤寅次郎、青木富夫、坂本武

和製喧嘩友達 [パテベビー短縮版] (14分・24fps・35mm・無声)

小津作品で現存する最も古い「若き日」(1929年)に後続する作品で、監督第9作目にあたる。トラック運転手の渡辺篤と吉谷久雄のコンビが、ふとした偶然から身寄りのない娘を引きうけ同居生活を送るうちに恋の鞘当てとなるが、娘に相思相愛の青年がいることを知って快く身を引く二人の門出を祝う。アメリカ映画「喧嘩友達」(1927年)のコンビ喜劇を巧みに和製化しており、ハリウッド映画の小津的な摂取を示す作品でもある。上映するプリントは全体で約77分のオリジナルを短縮した9.5mm版を35mmに復元したもの。青年と姉のエピソードなどは欠落しているものの、この時期の小津映画の軽快でスマートな作風を伝える貴重な資料となっている。日々の作品収集が図らずも大きな発掘=発見につながった幸運な一篇である(復元作業:育映社)。

'29(松竹蒲田)◎小津安二郎◎野田高梧◎茂原英雄◎渡辺篤、浪花友子、吉谷久雄、結城一郎

A-2 11/3(水・祝)4:00pm 11/11(木)6:30pm 11/13(土)1:00pm 11/19(金)3:00pm

感激時代 [パテベビー短縮版] (19分・18fps・35mm・無声)

松竹蒲田のスポーツ万能スター鈴木伝明が、恋人役の田中絹代とともに主演した映画で、恋と友情の板ばさみに悩む青年像が描かれる。監督の牛原虚彦は、鈴木にとって松竹キネマ研究所時代からの兄貴分であり、このコンビから、明朗なアメリカニズムを漂わせた「カレッジもの」というジャンルが日本で初めて生み出された。東京お茶の水の聖橋に近い「M大学」のボート部選手という設定は、明治大学出身である鈴木を意識したものであろう(復元作業:育映社)。

'28(松竹蒲田)◎牛原虚彦◎畑耕一◎吉田百助◎水谷文次郎◎鈴木傳明、三田英児、田中絹代、松井千枝子、横尾泥海男、小林十九二、斎藤寅次郎

石川五右衛門の法事 [パテベビー短縮版] (21分・16fps・35mm・無声)

無声映画時代の斎藤寅次郎(寅二郎)は、ナンセンス喜劇の最先端と目され、その絶頂期にあつたとされながら、現在はフィルムがほとんど残されていない。そのためこの復元版プリントは極めて貴重である。物語は、恋人の父親に結婚を許されなかったばかりか殴り殺されてしまった青年石川が、先祖(!)である石川五右衛門の幽霊に嘆願して無理やり望みを成就させるという紛れもなきナンセンス。題名の即物性もさることながら、この破壊的な想像力が許容された当時の製作環境に思いを馳せるのも有意義だろう(復元作業:育映社)。

'30(松竹蒲田)◎斎藤寅次郎◎絹川秀治◎池田忠雄、伏見晃◎武富善雄◎渡辺篤、横尾泥海男、青木富夫、坂本武、香取千代子、縣秀介

本壘打 [パテベビー短縮版] (13分・16fps・35mm・無声)

田坂具隆門下から監督昇進した新人熊谷久虎の第3作で、後の代表作『阿部一族』(1938年)などに見られる重厚な演出とは対照的な、明るいタッチを示している。あまりの腕白ぶりに引越ばかりしている少年ターちゃんとその家族。新しい引越先でも、草野球をしていて打球が彫刻家の家の窓ガラスを割ってしまった、ターちゃんは野球を禁じられてしまうが…。短縮版とはいえ、フィルムが現存する最も古い熊谷作品(唯一のサイレント)となる(復元作業:育映社)。

'31(日活太秦)◎熊谷久虎◎毛利三郎◎松沢又男◎尾上助三郎、見明凡太郎、曾我あいつ、阪東三江菜、中村寿郎、岡田和夫、有島さ枝、大泉浩路、岸井明、中村政登志

國士無双 [パテベビー短縮版] (21分・18fps・35mm・無声)

斬新な時代劇を開拓しようとしていた千恵蔵プロが伊丹万作に演出を託した作品で、公開当時から「ナンセンス時代劇」と呼ばれた。復元版は前半のダイジェスト版で、偽物の伊勢伊勢守が本物と鉢合わせて勝負するシーンや、本物が山奥の仙人のもとで修業をするシーンが残されている。偽物があつさり本物に勝ってしまう物語設定も斬新だが、「メンタルテスト」といった奇抜な挿入字幕などは、伊丹がこの作品にとりわけ言語的なセンスを発揮したことを証明している。なお上映プリントは大阪のプラネット映画資料図書館が復元したものである。

'32(片岡千恵蔵プロダクション)◎伊丹万作◎伊勢野重任◎石本秀雄◎片岡千恵蔵、瀬川路三郎、渥美秀一郎、高勢実乗、伴淳三郎、山田五十鈴

A-3 11/4(木)3:00pm 11/11(木)3:00pm 11/16(火)6:30pm 11/20(土)1:00pm

瀧の白糸 (102分・24fps・35mm・無声)

溝口健二監督のサイレント映画の傑作。女水芸師、瀧の白糸=入江たか子と、法律を学ぶ青年、村越欣弥=岡田時彦の悲恋物語は、溝口健二の一連の「明治もの」の代表作としても知られている。このフィルムには、現在確認できる範囲で二つの系統がある。その一つをNFC所蔵のプリント(谷天朗氏寄贈)とするならば、もう一つは、関西版とでも呼ぶべき系統である。これは明らかに系統が異なるもので、京都府京都文化博物館所蔵のプリントとそのマスターだと思われる共和教育映画所蔵のプリントがこれにあたる。大きな違いは、前者には法廷で白糸が自殺する場面以降がなく、関西版にはその場面が存在していることである。今回上映するのはこれら3本の16mmプリントを比較対照し、最良の映像を選択しつつ、35mmにブロー・アップし、現在の時点における最長版とした復元プリントである(復元作業:IMAGICA)。

'33(入江プロ)◎溝口健二◎泉鏡花◎東坊城恭長、増田真二、館岡謙之助◎三木茂◎西七郎◎坂根田鶴子◎入江たか子、岡田時彦、菅井一郎、村田宏寿、滝鈴子、見明凡太郎、浦辺糸子、大泉浩二、大原稯、川瀬隆司、沖悦二、小坂信夫、田中筆子



和製喧嘩友達

A-4 11/4(木)6:30pm 11/12(金)6:30pm 11/16(火)3:00pm

長恨[部分](12分・18fps・35mm・無声・染色版)

日活入社間もない伊藤大輔と大河内傳次郎が初めてコンビを組んだ作品で、殺陣シーンで先輩たちを驚かせたというエピソードが残されている。残されていた最終巻は、その乱闘シーンのみで構成されており、弟を逃がし斬り死にしていくな主人公、逃れていく弟とその恋人とのカット・バックの激しさと巧みさで、伊藤映画の片鱗をうかがわせる(復元作業:IMAGICA)。

*26(日活大將軍)伊藤大輔◎渡会六蔵◎大河内傳次郎、久米譲、尾上卯多五郎、川上弥生、市川百之助、川田弘道、室町英次郎

忠次旅日記[英語字幕付](94分・18fps・35mm・無声・染色版)

1992年11月に復元公開された伊藤大輔監督の「忠次旅日記」(「信州血笑篇」の一部と「御用篇」からなる)は、その後も全国各地からの要請に応じて映画祭などで広く上映されてきた(復元作業:育映社)。さらに今回、新たに英語字幕を付したプリントを作製し、7月にイタリアのポローニャで開かれたチネマ・リトロヴァート(復元映画祭)で上映好評を得ることができた。映像と字幕のダイナミックなモンタージュに腕をふるった伊藤大輔特有の個性的な字幕を、物語を尊重しつつ英訳した新しいプリントである(斉藤綾子訳、イアン・マクドゥーガル監修)。

*27(日活大將軍)伊藤大輔◎渡会六蔵(信州血笑篇)、唐沢弘光(御用篇)◎大河内傳次郎、中村英雄、中村吉次、朝比奈勇二郎、阪本清之助、磯川元春、沢蘭子、村上英二、秋月信子、尾上華丈、中村紅果、市川百之助、浅見勝太郎、岡崎晴夫、石井貫治、本田繁太郎、市川正之助、尾上卯多五郎、嵐瑞左衛門、伏見直江

A-5 11/5(金)3:00pm 11/12(金)3:00pm 11/17(水)6:30pm

日本の母(89分・35mm)

近年フィルムが発見された松竹大船のオールスター作品であるが、通常の「オールスター作品」以上の豪華キャストが動員されたのも戦争中ならではのことだろう。この時期、「家族」と「国家」の狭間で悩む母親像を描いた作品は珍しくないが、その一方で野田高梧の脚本を得たこの作品は、戦後の小津作品に代表される松竹のひとつの路線を予感させる。このプリントの元になったのは、1950年の熱海の大火の際に映画館より救い出され、個人の手で長らく保管されていた可燃性フィルムである。近年松竹大船撮影所がその未亡人より寄贈を受け、(株)映像鎌倉がデュープ・ネガを作成した。多少の欠損箇所はあるが、ほぼ完全な形で復元されている。

*42(松竹大船)◎原研吉◎野田高梧、八木沢武孝◎武富善男◎本木勇◎浅井譽暉◎葛城文子、佐分利信、上原謙、田中絹代、佐野周二、高峰三枝子、三宅邦子、木暮実千代、斎藤達雄、河村黎吉、吉川満子、水戸光子、川崎弘子、三浦光子、徳大寺伸、坂本武、飯田蝶子、原保美、岡村文子、藤野秀夫、近衛敏明、笠智衆

A-6 11/5(金)6:30pm 11/9(火)3:00pm 11/19(金)6:30pm

カルメン故郷に帰る[白黒版](85分・16mm)

わが国初のカラー劇映画といわれる「カルメン故郷に帰る」は、カラー版12本モノクロ版14本のプリントが作製されたと松竹社史は伝えている。このモノクロ版は、カラー版とは別途に撮影された(別の作品)である。カラー版には存在しない場面や異なる演出もあり、木下恵介作品を研究する上でも貴重なものとなっている。当時のカラー・フィルムの能力、全国配給に要するプリント数などを勘案して、モノクロ版が製作されたようであるが、映画史上に特記され、その後もしばしば上映されてきたカラー版はともかく、モノクロ版はその機会のないまま忘れられたかたちとなっていた。このモノクロ16mmプリントを所蔵していたのは京都府京都文化博物館である。それによれば、このプリントは木下監督所有の16mmプリントをもとに作製されたとのことである。なお、今回上映のプリントは松竹株式会社からの購入プリントである。

*51(松竹大船)◎木下恵介◎楠田浩之◎小島基司、平高主計◎木下忠司、黛敏郎◎高峰秀子、佐野周二、笠智衆、井川邦子、坂本武、見明凡太郎、小林トシ子、三井弘次、望月美恵子、山路義人、磯野秋雄

A-7 11/6(土)1:00pm 11/10(水)3:00pm 11/13(土)4:00pm 11/18(木)6:30pm

バルガス平原の決闘[南米の広野に叫ぶ](76分・35mm) E a Paz Volta A Reinar

日系ブラジル移民一世たちが自らの手で製作した唯一の長篇劇映画。日本での俳優生活を捨ててブラジルに移住したばかりの大日方伝が主演したことで貴重な一本で、本年出版された「シネマ屋、ブラジルに行く」(細川周平著、新潮選書)でクローズアップされた。長らくオリジナル・ネガは東京都田無市の電通映画社(現電通テック)倉庫に保管されていたが、1996年に同社よりフィルムセンターに寄贈され、この度復元プリントが完成した。作品は、勝ち組・負け組の抗争が続く第二次世界大戦後のブラジル・サンパウロ州で、牧場主の娘と将来を約束した日系の雇い人(大日方)が、悪党一味の襲撃に抗して闘う様子を西部劇風のアレンジで描いている(復元作業:東京現像所)。

*54(リベルダー映画社)◎ドン・セバスチャン・サトー◎佐藤吉典◎大日方傳◎ルイス・フレイミング◎アントニオ・モラエス◎オズワルド・スターマツ◎徳川夢声◎グレゴリー・スタウデル、アリ・フェレーラ・カルバリョ、ジョルジア・マヤ、大谷康夫、藤間勤輝、中野健

A-8 11/6(土)4:00pm 11/9(火)6:30pm 11/17(水)3:00pm

明治二十八年の両國大相撲(11分・16fps・35mm・無声)

浅野四郎や柴田常吉と並ぶ最古の日本人映画カメラマン、土屋常二によって1900(明治33)年に撮影されたフィルムで、取組は暗幕を張った力士の支度部屋で再現されている。前年にアメリカ渡航から戻って間もない土屋は拳闘映画の評判から着想を得ていたともいわれ、神田錦輝館の興行では行司の声を蓄音機で再現するなどの趣向が凝らされた。今回上映するのは昭和初期に公開された改訂版で、「明治二十八年……」のタイトルはこの時に加えられたものと思われる。プラネット映画資料図書館が所蔵する可燃性35mmポジを原素材としている。

1900◎土屋常二

先代萩(5分・16fps・35mm・無声)

明治末期から大正初期にかけて流行した舞台の実写もののひとつ。Mカシー商会は吉澤商店、横田商会、福宝堂とともに日活に統合されたMパター商会の梅屋庄吉が再興したプロダクションで、少女歌舞伎《娘美国》の座長、中村歌扇はMパターの第1回作品「曾我兄弟狩場の曙」(1908年)以来の代表的な役者であった。本作では「伽羅先代萩」から「御殿の場」が再現されている。内容はいわゆる伊達騒動を背景に、幼君鶴千代をお家乗取りの企みから守るため乳母の政岡が一子の命を犠牲にして忠義を立てるといふもの。当時は義太夫出語りで上映された。

*15(Mカシー商会)◎中村歌扇

摂政宮殿下活動写真展覧会御台覧実況(3分・16fps・35mm・無声)

1921(大正10)年11月に開催された文部省主催による我が国最初の活動写真展覧会(於お茶の水教育博物館)は、急速な普及とともに社会問題化しつつあった映画のイメージ向上に大きく寄与したと言われる。フィルムは摂政宮となった直後の皇太子裕仁(昭和天皇)の訪問を記録したもので、数々の展示物を御見物する様子が点描されている。

*21(文部省)

史劇 楠公訣別(17分・16fps・35mm・無声)

上記御台覧でもう一つの話題となった尾上松之助による「楠公桜井の別れ」実演の記録。この御台覧は松之助にとって「一代の栄光」であり、当時の映画界にとっても象徴的な出来事であった。そのときの模様は文部省版の所蔵フィルムでは完全に欠落しているが、こちらは日活が所蔵する可燃性オリジナル・ネガから復元した別バージョンの実況フィルムで、尾上父子、摂政宮殿下、複数の映画カメラマンたちの姿が克明に捉えられている。

*21(日活)

海の生命線(71分・16mm)

海軍省の後援のもと、日本委任統治領であった南洋群島の生活や風物を紹介しながらその国防上の重要性を説いた本格的な国策映画。日本初の長篇記録映画として帝国劇場他での封切りで大ヒットを記録するとともに「キネマ旬報」では昭和八年度優秀映画(現在のベスト・テン)にも推されるなど、「実写」映画の新たな可能性を示すこととなった。製作にあたった横浜シネマ商会(現ヨコシネディーアイエー)は東京シネマ商会と並ぶ文化映画の草分け的プロダクションで、観測船「膠州」に同乗した社長の佐伯永輔、上野行清、北川二和、阪倉得三のほか、青地忠三や村田安司といった教育映画、アニメーション界のパイオニアの技術が総動員されている。今回上映するバージョンは1996年に新潟県上越市の元毎日新聞販売店から発見された約2万フィートの可燃性フィルム(毎日新聞)の中に含まれていたもので、毎日映画社によって不燃化作業が行われた。

*33(横浜シネマ商会)◎藤原正雄◎佐伯永輔◎上野行清、北川二和◎阪倉得三、矢野弘◎青地忠三◎村田安司

- ◎=監督・演出 ◎=原作・原案 ◎=脚本、脚色 ◎=撮影 ◎=録音 ◎=美術 ◎=音楽 ◎=編集 ◎=解説 ◎=出演
- 本特集には不完全なプリントが含まれています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

図書室カレンダー

太字は休室日

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

日 月	火	水	木	金	土
31 ・ 1	2 休映	A-1 ストン節 大学は出たけれど 突貫小僧 和製喧嘩友達 1:00pm (26分) (11分) (18分) (14分)	A-3 瀧の白糸 1:00pm (102分)	A-5 日本の母 3:00pm (89分)	A-7 バルガス平原の決闘 1:00pm (76分)
		A-2 感激時代 石川五右エ門の法事 本壘打 國土無双 4:00pm (19分) (21分) (13分) (21分)	A-4 長恨 忠次旅日記 6:30pm (12分) (94分)	A-6 カルメン故郷に帰る 6:30pm (85分)	A-8 明治二十八年の両國大相撲 先代萩 撰政宮殿下活動写真展覧会御 台覧実況 史劇 楠公訣別 海の生命線 4:00pm (11分) (5分) (3分) (17分) (71分)
7 ・ 8	A-6 カルメン故郷に帰る 3:00pm (85分)	A-7 バルガス平原の決闘 3:00pm (76分)	A-3 瀧の白糸 3:00pm (102分)	A-5 日本の母 3:00pm (89分)	A-2 感激時代 石川五右エ門の法事 本壘打 國土無双 1:00pm (19分) (21分) (13分) (21分)
	A-8 明治二十八年の両國大相撲 先代萩 撰政宮殿下活動写真展覧会御 台覧実況 史劇 楠公訣別 海の生命線 6:30pm (11分) (5分) (3分) (17分) (71分)	A-1 ストン節 大学は出たけれど 突貫小僧 和製喧嘩友達 6:30pm (26分) (11分) (18分) (14分)	A-2 感激時代 石川五右エ門の法事 本壘打 國土無双 6:30pm (19分) (21分) (13分) (21分)	A-4 長恨 忠次旅日記 6:30pm (12分) (94分)	A-7 バルガス平原の決闘 4:00pm (76分)
14 ・ 15	A-4 長恨 忠次旅日記 3:00pm (12分) (94分)	A-8 明治二十八年の両國大相撲 先代萩 撰政宮殿下活動写真展覧会御 台覧実況 史劇 楠公訣別 海の生命線 3:00pm (11分) (5分) (3分) (17分) (71分)	A-1 ストン節 大学は出たけれど 突貫小僧 和製喧嘩友達 3:00pm (26分) (11分) (18分) (14分)	A-2 感激時代 石川五右エ門の法事 本壘打 國土無双 3:00pm (19分) (21分) (13分) (21分)	A-3 瀧の白糸 1:00pm (102分)
	A-3 瀧の白糸 6:30pm (102分)	A-5 日本の母 6:30pm (89分)	A-7 バルガス平原の決闘 6:30pm (76分)	A-6 カルメン故郷に帰る 6:30pm (85分)	A-1 ストン節 大学は出たけれど 突貫小僧 和製喧嘩友達 4:00pm (26分) (11分) (18分) (14分)

展示室

石内都 モノクローム一時の器

Miyako Ishiuchi:
Time Textured in Monochrome
10月5日(土) - 12月11日(日)

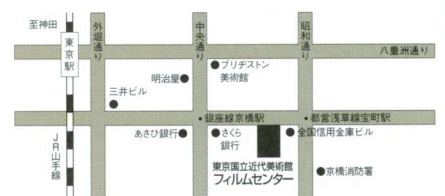
同年生まれの女性の手足を接写した「1・9・4・7」など、人間の皮膚やそこに残る傷痕をテーマにした一連の作品で、近年海外からも注目を集める写真家、石内都(1947年生まれ)。近作・新作を中心に、その“触知的”ともいべき独自のまなざしを捉えた世界を展覧します。

● 上記展覧会の詳細につきましては、当該のチラシをご覧ください。

2階受付では、「NFCニュースレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。



東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:
 営団地下鉄銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: NTTハローダイヤル 03-3272-8600
 東京国立近代美術館ホームページ: <http://www.momat.go.jp/>